みんなで支える森林づくり松本地域会議（第３回）の概要

【開催日】

平成 21 年 2 月 27 日（金）　13:30～16:00

【開催場所】

松本市大字島立 1020　松本合同庁舎　203 号会議室

【会議事項】

１　長野県森林づくり県民税活用事業の実施状況について

２　長野県森林づくり県民税活用事業の平成 21 年度の計画について

３　意見交換

【出席委員】

大　月　國　晴　　松本林業士会　会長

菅　原　　聰　　信州大学名誉教授　（座長）

関　森　省　吾　　筑北村長　（座長代理）

滝　沢　和　子　　松本市消費者団体連絡協議会　会長

西　村　いそ子　　松本フォレストレディクラブ会長

宮　崎　　威　　安曇野市商工会　事務局長

若　林　茂　孝　　間伐推進員

増　田　富　重　（松本広域森林組合参事　　森林組合等のご意見をいただくため出席していただきました）

【主な意見等】　（委員等の発言内容を、発言順に質疑等を除いて整理しました。（事務局））

○　県民からみると、ここは森林税を使ってやった、ここは通常の補助事業でやったということはあまり関係ない。総合的にやっていただければいい。

○　この配布された資料に使っている「集約化事業」ということばについて、一般の人は、その具体的な内容についてなかなか分かりにくいのではないでしょうか。

○　森林簿という台帳がないと誰の山かまったくわからない。個人情報の関係もあり、すぐに森林整備に着手するというのは難しい。森林組合や行政など、森林所有者の整備の意向を確認しやすいところでまとめて、施業はまた別な人がやるという形はどうだろうか。

○　森林所有者の中に東京などに出て行ってしまって、地元にいない人がいる。その人に森林整備の同意をとるために、理解を求める仕事は大変である。

○　集約化という作業は地域の人がやるのが一番いい。都会に出てしまっている場合、地元に親戚がいる場合が多いので、その親戚の方に整備をやりたいから連絡を取ってほしいと話す方法がよい。

○　同意がとれなくても森林整備ができる方法はないのだろうか。この課題についてきちんと整理しておく必要がある。

○　県民からみると山を持っていない人の方が多い。税金を取られているという意識の人がたくさんいる。県民の立場から考えると、このお金（税金）がどのように使われているかよく分かっていないのではないかと思う。森林整備を実施した箇所にのぼり旗や横断幕を設置しているということですが、そこへ行かないと見えない。いろいろな効果的なＰＲ方法をやっていく必要がある。

○　山がきれいになることが先で、県民税は森林で使われるとありがたい。けれども、森林税がどこで使われたかわからないということでは困る。ＰＲすることは必要である。

○　モデル団地１箇所にのぼり旗２本を立てたということであった。もう少し増やしていただけたらよいと思う。

○　作業路の整備は、今後の基盤の整備としても必要である。

○　森林づくり推進支援金は各市町村の特徴があること、その市町村しかやれないことをやってほしい。

○　市町村の特徴が出るように使ってもらうことをもっとＰＲした方がよい。

○　松くい虫被害の拡大については、今後どうなるのか。これから先がわからいところがあって困っている。

○　来年度の県予算では税事業による間伐の面積を倍にするということである。これだけの事業量をやるには、それなりの労働力がないとやっていけない。

○　この地域は他の地域と違って林業事業体の数が少ない。その方たちと協力して森林整備の体制を作るなど、担い手の育成強化が必要である。

○　はじめに、森林整備がやり易くて広いところの森林から整備するということは、後に残るのは、やり難くて狭い場所となる。

○　搬出間伐は、切り捨てに比べて多くの労務が必要となるので、限られた予算の中でできる面積は小さくなる。

○　個人の山で、何十人もの所有者がいるところでは、それをまとめないと実際の作業はできない。そのまとめること（集約化）ができるかできないかによって実施できる面積が変わってくる。

○　ホームセンターなどで販売されている木材の価格をみれば安いので、地元の間伐材の利用は難しいと感じる。地元の木を使うということがよいことは分かっているが、間伐材の利用というのは本当に難しい問題だ。

○　来年度の木育推進事業のなかで、「森林税により整備された身近な森林からの材を活用した木育活動への支援」と記載がある。森林税で間伐材を出すことは補助対象になっていないのではないか。

○　間伐材を搬出できないのはもったいない。出せば出すほどお金（経費）がかかってくるとなると、それもまたたいへんなことだ。

○　１年たったところで森林税の動きがようやくわかってきた。森林税が県民に分かっていただけるかということが、大事な問題だ。

○　これから森林税をどうやって生かすかということについて、各自治体もＰＲをやっていかなければいけない。

○　有害鳥獣対策は地域の課題である。農地の荒廃地が増え、山も荒れてきている。専門家からお話を聞いて、地元のみなさんと一緒に対策をとっていく必要がある。

○　地球温暖化の問題で森林に関心を持っている人はいっぱいいる。昨年から森林税に関するパンフレットも配られていて、森林税に対しては理解が進んでいると思う。ただ、森林のこと、整備の内容のことなど、具体的なことについては誰も知らないのではないか。

○　イベントで木を植えた後、下草刈りなどをしないでいると、数年もたてば草がたいへん大きくなってしまう。継続的に作業を行う仕組みを作らないといけない。森林税は５年間ですので、さらに長期的に考えた方かよい。

○　今、間伐が全部であるような形でやっているのはおかしいと思う。植えてから伐るまでの全体のことを考えていかなければならない。

○　森林税でいろいろな面の施策をやってもらいたい。間伐ばかりやる必要はないと思う。慌てずにじっくりとやってもらいたい。一般の人が目に着くようなところから手入れをしていって、理解を得ていくことが必要ではないか。

○　地域会議で実際に現地を見たことで、森林整備や木材について理解が進んだ。森林税は今年から法人も納めるようになるので、関係する法人の方にもＰＲしていただきたい。

○　山というのは、植林して、手入れをして伐採するということの繰り返しである。今の時期はこの間伐をやらなければいけないので、人を増やし、業者の方たちと連携してやる形を考えている。ただ、新規の人たちを一人前にするのに時間が掛かる。一人前になったころに森林整備の仕事が少なくなれば、何のために増やしたのかということになってしまう。

○　間伐はやらなければいけないが、全体のバランスも取って、長野県に住んでよかったという環境にしていかなければならない。森林整備の計画どおりできなかったとしても、だれも駄目だとは言わないと思う。